

公益財団法人 埼玉県生態系保護協会  
令和 7 年度 事業報告  
(令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日)

当協会では、持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、自然環境が有する多様な機能を活かしたグリーンインフラの普及、「ネイチャーポジティブ」「30by30」など、生物多様性に関する 2030 年までの世界共通目標の実現に向けて、関係行政機関・企業・団体等との協議・調整や提案を積極的に行いました。また、当協会が目指す自然と伝統が共存した持続可能な地域づくりに向けて、多くの会員及びボランティアの皆様のご支援のもと、各種事業を積極的に展開しました。

## 1. 普及広報環境教育事業

『子どもたちがいきいきと輝く自然と伝統が共存した持続可能な地域づくり』を目的に、以下の普及広報・環境教育事業を展開しました。

### 1-1 普及広報事業

#### ①政策提言事業

埼玉県、さいたま市、熊谷市、加須市、東松山市、春日部市、北本市、鶴ヶ島市等の環境審議会、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会、河川整備計画フォローアップ委員会（荒川水系）、河川環境保全モニター（荒川、中川・綾瀬川）、河川水辺の国勢調査アドバイザー（利根川上流、荒川上流・荒川調節池・二瀬ダム、荒川下流、江戸川・中川・綾瀬川）、荒川上流環境保全連絡会、熊谷市荒川かわまちづくり協議会、多自然川づくり関東地方ブロック担当者会議、関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会、上尾道路（江川地区）環境保全対策検討会議、埼玉県河川整備計画策定専門会議、埼玉県生物多様性保全に関する有識者会議、埼玉県希少野生動植物種検討委員会、埼玉県カワウ対策協議会、シラコバト保護対策検討会議、埼玉県特定鳥獣保護管理検討委員会、本庄早稲田の杜環境対策調整会議、上尾丸山公園自然再生専門家会合、越谷市総合振興計画審議会、朝霞市緑化推進会議、朝霞市生物多様性市民懇談会、北本市総合振興計画審議会、北本市文化財保存活用地域計画策定協議会、史跡デーノタメ遺跡保存活用計画策定委員会、富士見市都市計画審議会、両神山自然環境整備会議等への委員の派遣の他、県議会等への政策提言活動を行いました。

#### ②自然観察会・環境管理事業

「自然を歩く会」「自然かんさつの会」をはじめとした各種観察会を県内各地の団体と連携し 502 回開催しました。また、サクラソウをはじめとした湿性草地や武蔵野の雑木林の環境管理活動・イベント等を行い、広く市民の参加を募った他、環境関連団体が実施する自然観察会や環境管理作業への講師派遣を行いました。

#### ③環境講座・環境イベント事業

市民対象の「環境カレッジ」をはじめとした持続可能なまちづくりにつながる講座や研修会の開催、彩の国環境大学、行田市市民大学、さいたま市大宮南部浄化センター、きたもと森林セラピー、戸田市緑化研修会等、自治体及び各種行政機関・団体への講師派遣を行いました。

#### ④会報及び書籍の編集発行事業

会報「ナチュラルアイ」を発行しました。この他、市民団体等が発行する環境に関する発行物の編集支援を行いました。

#### ⑤市民活動支援事業

入間川流域の河川での環境保全活動を支援する「武州・入間川プロジェクト」を、武州ガス(株)、荒川上流河川事務所と連携し、学校や市民団体等 8 団体へ助成を行いました。また、(株)タムロンの支援を得て、見沼の自然を再生・保全する「芝川第一調節池環境管理パートナーズ」の事務局

を担いました。

#### ⑥企業・団体活動支援事業

(株)武蔵野銀行、(株)トヨタレンタリース埼玉、TOPPAN ホールディングス(株)関連企業、岩堀建設工業(株)、プルデンシャル生命保険(株)大宮支社、KDDI(株)首都圏総支社、日本電気通信システム(株)等を対象に、生物多様性の保全・再生に関する講座、自然観察や保全管理活動の支援等を行いました。

#### ⑦ウェブサイト・各種媒体を通じての広報事業

当協会ホームページや SNS、新聞、NHK さいたま放送局 FM ラジオ等を通じて、環境関連情報の積極的な発信や環境保全の新たな担い手の確保に努めました。

#### ⑧写真・パネル等の貸し出し事業

マスコミや行政・市民団体等への動植物の写真やパネルの貸し出し及び使用写真の選定の支援を行いました。会員等からの写真を広く募集し、コンテンツの充実に努めました。

### 1-2 環境教育事業

#### ①コンクール事業

身近な自然の大切さに子どもたちが気付くこと、また子どもたちの作品を通じて広く市民に認知されることを目的に、第 41 回「私たちの自然を守ろうコンクール」を朝日新聞さいたま総局と開催し、2,421 点の応募の中から 175 点の受賞作品を決定、表彰式を行いました。

#### ②教員向け環境情報誌の発行事業

将来世代を担う児童や生徒を指導する教員への普及啓発を目的に、教師用ナチュラルアイを県内の教育委員会・小・中学校・高等学校・特別支援学校 1,505 箇所へ無償で配布しました。

#### ③学校園庭ビオトープ事業

(公財)三菱 UFJ 環境財団の学校園庭ビオトープ助成事業の県内での窓口として、所沢市立中富小学校、所沢市立並木小学校の支援を行いました。学校園庭ビオトープの整備・管理手法についての相談を随時受け付けました。

#### ④教育現場への講師派遣事業

児童・学生への環境学習の推進を目的とし、埼玉大学、東京環境工科専門学校、さいたま市立大原中学校、川口市立根岸小学校、さいたま市立大牧小学校、川島町立つばさ小学校、川口市立柳崎小学校、大古里育ちの森幼稚園、しののめキッズパーク保育園等の教育機関への講師派遣を行いました。

## 2. 調査研究事業

『子どもたちがいきいきと輝く自然と伝統が共存した持続可能な地域づくり』を目的に、以下の調査研究事業を展開しました。

### 2-1 自然生態系保全・再生に関する調査研究事業

①自然と共存した土地利用を進めることを目的に、秩父地域の山林、狭山丘陵、武蔵野平地林地区、見沼田圃、河川（荒川、越辺川、江川、芝川、利根川、江戸川、中川等）及び周辺地域、各種保全地域において、希少種・外来種を含めた野生動植物の生息・生育状況、生物多様性の動向等の把握と評価を行いました。

②荒川本川、越辺川ほか入間川流域、不老川、柳瀬川、江川、中川、綾瀬川等の各河川と隣接地区における、自然生態系の改変を伴う河川工事や調節池・遊水地整備事業、上尾道路ほか道路整備事業、区画整理・公園整備事業等について、希少野生動植物等の保全と両立するための調査研究や、関係主体との協議・調整を行い、中・長期的な生態系ネットワークの形成やネイチャーポジティブな地域づくりに資する具体的な対策を提案しました。

③コウノトリ、オオタカ、ハクチョウ類、サギ類、ホンドキツネ、ムサシトミヨ、ミドリシジミ、サクラソウ、サワトラノオ、キタミソウ、カワラナデシコ等、シンボル性を有すると共に絶滅に瀕した野生動植物の生息・生育環境を、効果的に保全管理し再生するための調査研究と、その成果を活かして、国県市町の関係部局、教育機関、NPO、地域住民、企業等との連携・協働による活動を実践しました。(戸田ヶ原自然再生事業、上尾市いきもの保全調査団事業、埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォーム・大森調節池ワークショップ、見沼たんぼ首都高ビオトープ、早稲田大学所沢・本庄校地エコロジーキャンパス、(公財)サイサン環境保全基金・子どもたちと自然をつなぐ体験活動プロジェクト等)

## 2-2 環境関連の法律・条例等に関する調査研究事業

国や地方自治体の環境関連の法律や条例・制度等を調査し、自然生態系の保全・再生に寄与する法律や条例・制度・計画・施策等の制定や改正、その充実に向けた研究と提言を行いました。

## 2-3 環境教育に関する調査研究事業

教育現場の視察や教職員のヒアリングを通じて、総合学習や理科教育の場としての学校ビオトープの整備手法や環境教育のカリキュラムのあり方等について検討しました。

## 3. 指定管理事業

『子どもたちがいきいきと輝く自然と伝統が共存した持続可能な地域づくり』に貢献することを目的に、以下の公的施設の指定管理事業を行いました。

### 3-1 埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園

埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園は、北本市内にある埼玉県における自然学習の拠点施設であり、自然とふれあうことを目的とした 33ha の都市公園です。令和 7 年 12 月には、北本自然観察公園が「自然共生サイト」に認定されました。園内では、クビアカツヤカミキリの被害が確認されはじめました。

#### ①自然観察会等のイベント・講座の実施

「定例自然かんさつ会」「野あそび教室」「生きものいきいき隊」「生物多様性を守ろう！館内クイズラリー」等のイベントを 661 回開催し、参加者は延べ 15,872 名でした。

#### ②環境教育をすすめる人材育成

幼稚園教諭・保育士を対象とした研修を 4 回、森林セラピーガイドを対象とした研修を 4 回実施しました。博物館実習及びインターンの大学生・高校生を計 5 名受け入れました。

#### ③自然環境に関する展示、ホームページの更新等

館内では生物多様性に関する展示や季節の生きものに関する展示を行いました。また、外部では「北本自然観察公園・季節のうつろい写真展」(北本市)の開催等、館内外あわせて 63 回行いました。ホームページの更新を 313 日、X (旧 Twitter) での情報発信を 981 回行い、ニュースレターを年 4 回発行しました。利用者は 81,081 名となりました。

#### ④センター施設の保守・管理・貸出

施設の日常清掃、機械警備を毎日行い、エレベーター、自動ドア、浄化槽、展示設備等の定期的な保守・点検を行いました。講義室・研修工作室・会議室の利用申請等が 62 件ありました。

#### ⑤生物多様性の向上と来園者の安全を考えた園内の維持管理

埼玉県自然学習センター条例上の開館日だけでなく、春休み・年末年始期間に臨時開館して、利用者ニーズに対応しました。ヘイケボタルの発生時期には夜間のパトロールや来場者誘導を強化し、安全管理に努めました。208 名の登録ボランティアの皆様による管理作業を 16 回行いました。また、(株)加藤建設、清水建設(株)、三菱電機(株)関越支社、リンテック(株)伊奈テクノロジーセンター等の企業や彩央会等の地域団体による管理作業を 12 回受け入れました。そのほか、専門

業者による草刈りや湿地耕耘、枯損木伐採などの管理作業を行いました。発生から5年目となるナラ枯れについては、引き続き県・市・近隣地権者と協議しながら、園路沿いの被害木を伐採するなどの対応を進めました。

### 3-2 荒川大麻生公園

荒川大麻生公園は、熊谷市内の荒川河川敷に整備された81haにおよぶ都市公園です。河原特有の希少植物が自生する「野草の広場」や、100種以上におよぶ多様な鳥類が生息する「野鳥の森」、レクリエーション利用のための緑豊かな「自由広場」(グラウンド)等があります。ホームページ・ブログ・X(旧Twitter)での情報発信のほか、公園内看板の更新やミニコミ誌へのイベント情報の掲載依頼など、普及・広報活動に力を入れて運営を行いました。

#### ①生物多様性の向上と来園者の安全を考えた園内管理

火入れによる砂礫河原の草地管理、園内の希少動植物の保全や外来動植物の駆除、園内施設の点検・修理等の管理作業を145回実施し、秋には、洪水時撤去に備えた訓練を協力業者と共に行いました。県が実施した樹木調査、伐採剪定作業、ロープ柵更新工事、駐車場改修工事にあたり、現場管理者の立場から調整を行いました。

#### ②自然観察会や環境管理活動等の開催・実施

親子向けの「わくわく野あそび隊」のイベントをはじめ、公園管理作業をスタッフと共に行う「エコ・パークボランティア」等の活動を計32回開催し、延べ554名が参加しました。

#### ③自然環境と調和した自由広場(グラウンド)の環境管理と利用管理

自然環境と調和したグラウンドにするための在来樹木や植え込みの管理・育成を行うと共に、快適な利用を図るために芝生の管理を行いました。スポーツ大会やレクリエーションの場として、熊谷市や地元公民館、高等学校等からの利用申請は37件、届け出があった利用者数の累計は19,686名でした。

## 4. ナショナルトラスト事業

『子どもたちがいきいきと輝く自然と伝統が共存した持続可能な地域づくり』に向けたナショナルトラスト事業を行いました。

### 4-1 地域の自然環境を維持・向上するための土地の所有及びその実現のための募金活動

①新規トラスト地の取得に係る募金活動に力を入れて取り組みました。サクラソウトラストにおいて、新たに1,242m<sup>2</sup>の貴重な湿地を寄付により取得しました。

②山林や庭園等の寄付の受け入れ及び売買に関する相談に対応しました。

③企業と連携した「水のトラストしよっ基金」の活動推進

Yahoo!ネット募金、(株)武蔵野銀行の寄付型自販機の他、(株)サイニチホールディングスの支援を得て「水のトラストしよっ基金」への寄付や広報活動を含む取組連携の覚書を締結・更新しました。

④当協会が所有するトラスト地の維持・管理

秩父市、桶川市、川口市、狭山市、所沢市、伊奈町、鳩山町、小鹿野町、毛呂山町、千葉県松戸市内に所有する各トラスト地の巡視・維持・管理活動を、地元自治体や各支部等との連携のもと行いました。

### 4-2 ナショナルトラスト活動を行う地域団体の活動支援

「おおたかの森トラスト」や「エンハンスネイチャー荒川・江川」等のトラスト活動の支援を行いました。